

令和 6 年度
自己点検・評価報告書

- ・ボランティア支援
 - ・学生支援
 - ・キャリア支援

令和 7 年 3 月
富山短期大学 学務課（学生支援担当）

・基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

テーマ：A 建学の精神

区分：2 高等教育機関として地域・社会に貢献している

<現状>

教職員及び学生のボランティア活動は、平成 19 年に学務部内にボランティア支援センターを設立し、Web ボランティア手帳のシステムを構築した。令和 2 年 4 月の事務組織再編を機にボランティア支援センターは学生部内の組織として位置づけられた。令和 6 年 4 月より本学の組織改編により学生部から学務課（学生支援担当）へ名称変更となったが、引き続き支援を行っている。

本学ではボランティア活動に対する取組は定着していると実感しているものの、学科や学年により、参加率にはばらつきがある。

令和 6 年度のボランティア依頼件数は、増加傾向にあり、地域からの期待の高さがうかがえるとともに各団体等の人手不足が考えられる。

学生数に対する参加率は対前年比でみるとほぼ横ばい（R6：50.0% R5：50.1%）となったが、学生数の減少により、延べ参加人数は▲103 人（R6：500 人 R5：603 人）となった。

要因としては、多感な中学校や高校時代に人との交流や課外活動の制限があったことにより、積極的に参加する学生が減少し、学生の取り組む意識が変化したことによるものと推測される。また、1 年生の参加率が 73.8%（R5：73.6%）に対し、2 年生は 26.3%（R5：30.7%）と低く、就活の早期化と長期化の 2 極化による影響も少なからずあると感じており、今後検証する必要がある。

サークル活動の子育て支援サークルすみりーは、月 1 回以上の定期的な子育てイベントの開催や令和 5 年度より月に 1 度のラジオ番組に出演している。また、令和 6 年度は新聞掲載 3 回、富山県社会福祉協議会主催の研修会ではシンポジストとして出席、富山市社会福祉協議会主催の研修会は話題提供として参加するなど、精力的に活動している。また、児童虐待の予防と啓発を目的とする学生によるオレンジリボン運動などの活動も行っている。さらに乳児院へ訪問し、クリスマスプレゼントとして絵本を寄贈する取り組みは 6 年間継続し、幅広く地域・社会に貢献している。

<課題>

本学でのボランティア活動について、学生が地域社会を拠点に自ら進んで行う活動への発展が見られた。その活動を教員ならびにボランティア支援センターが、伴走と後方支援をすることができた。

<改善計画>

地域課題解決を意識した教職学協働のボランティア活動を全学的に一層推進する。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

テーマ：A 教育課程

区分：9 学生の卒業後評価への取り組みを行っている

<現状>

本学では、平成 25 年度（平成 26 年 3 月卒生）から経営情報学科、食物栄養学科、幼児教育学科、健康福祉学科の全学科で、学生の卒業後の評価を確認し、「卒業生の事業所・企業等就職先訪問報告書」を作成している。一般企業に就職する経営情報学科は、すべての卒業生の前年

度就職先企業へ評価調査票を郵送し取り纏め、今後の就職指導に活かしている。食物栄養学科・幼児教育学科・健康福祉学科の専門 3 学科は、教員が直接事業所を訪問する形式で実施し、対応がかなわない事業所等へは電話で聞き取りまたは「卒業生アンケート」を郵送し、回答を求めている。

「卒業生の事業所・企業等就職先訪問報告書」は、従来からの聴取内容を大きく分けると 3 本立てとなっている。柱の一つは、「卒業生の仕事への姿勢や職場での取組み状況」についての聴取である。卒業生の配属先の上司（人事担当者）に「礼儀・基本的マナー」「チームワーク（チームで働く力）」「アクション（前に踏み出す力）」「シンキング（考え抜く力）」の 4 項目について 5 段階で評価してもらうことにより、客観性を持たせ聴取している。二つ目の柱は、「大学で指導してほしいこと、学生に身につけてほしいスキル、資格等」についての聴取である。多く挙げられるのは「コミュニケーション力」「PC 関連スキル」「ビジネスマナー」等である。三つ目の柱は次年度の求人・職種について、企業の採用方針の聴取である。そして令和 4 年度から経営情報学科では、4 つ目の柱として、卒業生からの直接の声（コメント）を記入できる欄を新設し、アンケート調査結果等を教育活動等の改善に反映させた。この 4 つ目の柱は令和 5 年度からは他 3 学科でも導入し、短期大学全体の取り組みとしている。県内企業への就職率が毎年 90%以上と極めて高い。本学においては、キャリア支援センターと各企業の人事担当者の採用方針に関する情報の共有はミスマッチの低減への効果も期待でき、高い就職率を達成するうえでの有益な方策となっている。

「卒業生の事業所・企業等就職先訪問報告書」は 2 部作成し、キャリア支援センターと各学科で保管している。キャリア支援センターの進路ガイダンスや各学科のキャリアに関する教科における指導で、各企業の採用方針や、求める人物像の指導・相談に生かしている。

< 課題 >

毎年多くの時間をかけて「卒業生の事業所・企業等就職先訪問報告書」を実施・作成しているが、聴取して得られたデータや採用に関する具体的な情報等に関して、キャリア教育に生かしていく用途に限られ、単年度の指導・相談に生かす結果となることが多い。

< 改善計画 >

「卒業生の事業所・企業等就職先訪問報告書」を紙面ではなくデータで収集することにより、集計の手間を減らす。また集計の結果をキャリアに関する各学科の教育内容等に組み入れるなど、教育活動の改善につなげる仕組みを構築する。

テーマ：B 学生支援

区分：4 進路支援を行っている

< 現状 >

本学では、就職支援の組織として、「キャリア支援センター委員会」があり、教職員協働で活動・支援している。「キャリア支援センター委員会」は、委員長をキャリア支援センター長が務め、各学科の就職担当教員、担任、キャリア支援センター職員で構成し、就職活動の節目となる時期を中心に年間 4 回開催している。「キャリア支援センター委員会」では、支援体制の充実を図る目的として、就職支援の年間スケジュールと各学科の就職指導計画の確認、編入学指導に関する共通理解、求人票受理状況、「学内合同企業説明会」等の学内での就職活動に関する行事の企画・運営の確認、各学科の就職活動の進捗状況、卒業生からの事業所・企業訪問で得られた新卒採用に関する情報等、進路支援の骨格と概要について討議し、共通理解を図る場となっている。

毎年、就職試験、特に公務員を目指す学生を対象に就職支援対策の一環として、外部に委託し「就職筆記試験（公務員・SPI・作文）対策講座」を春休み期間の 3 月に集中講座形式で実施している。地方公務員、公立保育士・保育教諭、栄養教諭等を目指す約 70 名が受講し、人文科

学、社会科学、数理理解、空間把握等の講座を受講し、基礎的教養の向上に努め、今年度は 27 名の公務員（公立保育士含む）の合格につながった。また令和 6 年 3 月開催の講座からは、民間企業を志望する学生も参加できるように、SPI 対策講座を新たに盛り込み、更には作文指導・添削指導も取り入れ、より広い範囲の対策ができるよう充実を図っている。

本学では、一般企業を目指す経営情報学科は、1 年次の夏休みに 5 日間のインターンシップを経験し、後期から就活セミナー、業界研究会、進路ガイダンスを開催している。

また、1 年次の 2 月に学内合同企業研究会、2 年次の 4 月以降は学内合同企業説明会を複数回実施し、就職活動の支援を行っている。

<課題>

資格を活かして就職する食物栄養学科、幼児教育学科、健康福祉学科の専門 3 学科は 2 年次の実習を終えてから、就職活動が本格化しているが、一般職を希望する経営情報学科の学生とは活動時期が異なる。しかし、資格を活かし就職を希望する専門 3 学科の中には、実習を経た上で一般職を希望する学生が数名いるため、早期の対応が必要である。

就職活動が早期化・長期化する中で、就職活動に踏み出せない学生、就職活動が継続しない学生等が見られる。中には対人関係やコミュニケーションに課題を抱え配慮を必要とする学生もいるため、各学科とキャリア支援センター、健康支援センターと連携しながら、支援を行っている。また、学外の富山県人材活躍推進センターのヤングジョブとやま、新卒特別支援デスクや富山地域若者サポートステーション（略：サポステ）などとも連携を図りながら、きめ細やかな対応が求められる。

<改善計画>

就職活動が困難と予想される学生を早期に把握し、学科とキャリア支援センター、健康支援センター、外部支援機関と連携し、きめ細やかな対応を行うことが求められる。定期的に情報共有の場を設け、支援方針を検討していく。

区分：6 学生会、サークル、ボランティア活動の支援を行っている

<現状>

・学生会活動について

学生の自治組織として学生会がある。学生会は各学科の代表者 2 名 計 14 名で構成される。学生会活動は、学生会役員が中心となり、大学祭や新入生歓迎交流会（Welcome to TOMITAN）、クリスマス会等の行事を、学務課（学生支援担当）と連携し企画・運営を行っている。また、オープンキャンパスや卒業式・入学式等の行事には、学生会役員が運営補助として協力してもらっている。

・大学祭について

大学祭は、学園内の同一キャンパスにある富山国際大学子ども育成学部と合同開催に向け、学生および教職員の役員間で連絡・調整を行い協議しながら実施し、令和 6 年度で 4 回目を迎えた。

今年度は新型コロナウイルスの感染症も落ち着き、昨年度に引き続き人数制限のない完全対面にて開催することが出来た。また、調理を伴う模擬店の出店やキッチンカーも昨年以上に出演し、イベントに花を添えた。父母等や近隣の住民も参加し、大勢の来場者で賑わう充実した 2 日間となった。

・サークル活動について

現在、運動系・文化系併せて 20 のクラブ・サークルが存在し、どの団体も学生会のクラブ会に所属している。全学生の課外活動を保障するために設けられたトミタンアワー（毎週火曜日 5 限目 16：30～18：00）を活用し、積極的に活動している。

富山県女性財団の委託を受け始まった「生理の貧困」に対する取り組みは、サークル「ポプラ・プロジェクト」として継続し、令和 6 年度で 4 年目を迎えた。同キャンパスにある富山国際大学呉羽キャンパスの学生・教職員と協働で、トイレ個室への衛生用品の配置、困っている女性に対し相談・情報提供などの支援に取り組んだ。

・ボランティア活動について

令和 3 年度から学生の地域貢献活動の後方支援として「富山短期大学ボランティア活動等普及支援+One とともに」を開始している。この取組は学生の主体的な活動に対し助成金を交付し、補助するものであり積極的に活用されている。

今年度は 4 団体が申請し、有意義な活動が展開された。なお、年間をとおして顕著なボランティア活動を行った学生にはボランティア賞を授与するとともに、報告集を通じて全学生へ還元を図っている。昨年度のボランティア賞は個人 8 名が受賞し、今年度は個人 6 名が表彰された。

また、例年新生オリエンテーション時にボランティア賞を受賞した学生の中から、数名が活動内容をパワーポイントで発表し、地域貢献活動の意義を伝えている。

・リーダー研修会について

毎年、リーダーとしての自覚を養うため、学生会役員とクラブ・サークルの長を対象に、本学教員が講師となり、3 月に研修会を年 1 回開催している。

<リーダー研修会の目的>

チームの目的達成に向けて、円滑なコミュニケーションを図るため、一人ひとりの力を引き出すリーダーを目指す。

・「学長と語る会」について

「学長と語る会」と称する意見交換会を年 1 回開催し、学生の代表として学生会役員（現 2 年生）と次年度学生会役員（現 1 年生）が参加している。この「学長と語る会」は、学生からのアンケート結果をもとに学長が学生の声を直接聞く機会を設け、今後の学校運営に生かしている。

・学生支援について

学務課（学生支援担当）では、これらの学生会、クラブ・サークル活動、ボランティア活動等を通し、企画の立案から予算執行に至るまで幅広く助言を行い、全面的に支援している。

<課題>

新型コロナウイルス感染症が感染法上 2 類から 5 類に移行され、約 2 年が経過し、制限のない中で予定していた行事はすべて対面で行うことが出来た。しかし、イベントの学生参加率は依然低いのが現状である。今後もより学生が参加したいと思う行事とするための工夫や仕組み作りを行うことが重要と考える。また、サークル活動に関しては、学校間・学生間の相互連絡・協力体制をさらに緊密にしていくことが大切であり、学生生活の満足度を高めるため、加入者数の増加と活動内容の充実、団体の存続が課題である。

<改善計画>

学生会における諸活動のあり方を工夫し、より満足度を高める取り組みを目指す。開学 60 周年を終え、新たなスタートとなる次年度はさらなる学生会組織の活性化、クラブ・サークル活動の充実を図るための支援を引き続き行う。

区分：7 自転車・車通学、公共交通アクセスなど通学の利便性を図っている

＜現状＞

本学では、一定の条件を満たす 2 年生を対象に自家用車通学を希望する学生に交通安全講習会を実施している。交通安全講習会は本学専用駐車場の使用を許可する条件として出席を義務付け、駐車許可証を発行している。

1 年生や公共交通機関利用する 2 年生の利便性を高めるために、地元の路線バス会社（富山地方鉄道）と契約を結び、主要駅間と本学構内まで乗り入れする直通バスを、登下校時に運行している。また、地域のコミュニティーバスも構内への乗り入れが出来るようにしている。併設高校が生徒用として別途契約する直通 6 路線も利用可能なことから、学生の通学における利便性は大幅に向上している。

＜課題＞

本学学生駐車場の利用に関しては、別途規則等を定め、年間 4 回にわたり駐車指導を呉羽キャンパス内の大学・短大双方の教職員協働で実施している。学生のなかには許可証非呈示や無許可駐車など、ルールを守らない学生が見受けられるため、許可書非呈示違反者へは学務課（学生支援担当）窓口呼び出し、注意喚起を行っている。また、無許可駐車は駐車許可を得ている学生が不利益を被らないよう「車種・色・車両ナンバー」を学生支援課窓口や食堂内に掲示するなど違反者へ警告し注意を促している。

本学の近隣を走る第三セクター鉄道（あいの風とやま鉄道）に新駅設置を要望するため、平成 30 年より地元議員や地域自治会・住民等と本学園関係者で新駅設置期成同盟会を結成し、設置活動を行っている。今日まで認可は先送りとなっているが、学生の利便性向上のためにも、新駅設置活動を今後も継続し実現に向けて取り組んでいく。

＜改善計画＞

第三セクター鉄道（あいの風とやま鉄道）の願海寺新駅設置活動を継続実施する。

区分：8 卒業生、同窓会への支援を行っている

＜現状＞

本学には「あやな会」という名称の同窓会組織がある。「あやな会」の事務局と学務課（学生支援担当）間で緊密に連絡を取り合い、連携を図っている。「あやな会」は関東と関西にもそれぞれ支部を有し、年 1 回の総会と支部会が定例的に開催されている。今年度も対面にて開催し、本学から理事長をはじめ本学関係者数名が参加した。

卒業を予定している 2 年生へは、12 月に学科担任経由で同窓会との連絡委員の選出等を依頼し、入会へと至っている。

今年度も、本学の大学祭に「あやな会」の紹介動画を放映し参加してもらった。また、例年、年度末に「あやな会だより」を学務課（学生支援担当）と「あやな会」事務局協働で発刊し、「母校は今」というテーマで、学校の現在の状況を広く会員に報告している。

＜課題＞

引き続き、大学祭を含む各種イベントを「あやな会」事務局と協力して行い、関係強化を図ることが重要と考える。

＜改善計画＞

大学祭への参加をはじめとして「あやな会」との更なる連携強化に向けて、連絡体制等の再構築を検討する。同窓会会員に対し、年 1 回の総会への参加率を上げ活性化を図るための工夫が必要。

テーマ B 学生支援 特記事項

・学生表彰規程について

学生の在学期間において、学芸の調査研究・クラブ活動で優れた業績を修めた個人または団

体、その他本学学生として他の模範となる個人又は団体を表彰する規程がある。

今年度は食物栄養学科から個人 1 名、サークルから 1 団体の推薦があり、学長賞を受賞し卒業式で表彰された。また、学長賞を受賞した団体の子育て支援サークルすみリーは、富山県からも活動の功績が認められ「こども・子育て応援とやま賞」を受賞し、県庁で富山県知事より賞状をいただいた。